



♪ふれあいコラム

[バックナンバー]

今、話題の人物をクローズアップ！

2013年4月号 子供時代から親しんだ文楽をもっと多くの人に知ってもらいたい

よしだ こうすけ 文楽人形遣い 吉田 幸助さん

未来の文楽を担う次世代のホープとして活躍著しい吉田幸助さん。5月の赤坂区民センター『赤坂花形文楽 壱～若手が文楽の名作に挑む！～』に登場されます。

世襲制ではない文楽で親子三代の文楽一家に育った話や、文楽の楽しみを伺いました。

——お祖父様が吉田玉助氏、お父様が吉田玉幸氏。どんな子供時代だったのでしょうか。

小さい頃から人形が好きで、家にあるロボットで人形遣いごっこをして遊んだり、NHKの人形劇『新八犬伝』『プリンプリン物語』を見て育ちました。

6～7歳頃から劇場にもよく連れて行ってもらいました。当時、大阪の朝日座は空いていて、雰囲気も良かつたんですね。

淨瑠璃が心地良くて寝てしまったり、舞台に出た父の親友の吉田玉昇さんに「おっしゃーん」なんて声かけたり。

ちゃんと文楽の世界に入ろうと思ったのは、中学2年生の時。父は芸養子で修行の厳しさを知っていましたから「やめておけ」と反対されましたが、それでも頼んで入れてもらいました。

それからは親子ではなく師弟関係ですから、言葉も敬語になるし、本当に厳しくされました。祖父や父の名を汚してはいけない、ちゃんとしなくては、という思いもありました。

でも、やめたいと思ったことは一度もなかったですね。

——どんな修行をされたのですか。

文楽の世界に入るには、国立劇場の研修生か、師匠に入門する研究生になります。僕は研究生で、まず家の鴨居に人形の足をぶら下げる稽古をしました。

中腰でじっとするのは難しく、毎日少しづつ時間を増やして忍耐力を養うんですね。舞台では師匠の身の回りの世話や、幕の開け閉めをしながら雰囲気を覚え、研究期間の終わりになると、一回舞台で足を持たされ、それを師匠が見て判断し、正式にプロとなります。

文楽は足遣い、左遣い、主遣いの三人で一体の人形を操ります。

足遣いは主遣いの言う通りにきれいに遣うことが求められ、次に左遣いになると人形の基本動作ができるきます。

主遣いは本を読み込み、役柄を表現しなければなりません。いかに人間らしく魅せるか、人形は人にはできない極端な動きもできますから、そうした表現の探求が面白みです。

最初は思い通りにならず悔しかったり、できない自分が腹立たしいですが、教えてくれた方への感謝と探究心が大事ですね。

次第にわかってくると、やりたいことも増えてきます。今、いろいろな役に挑戦できるようになりましたし、人形の振りや衣装を考えたり、本当に楽しいですよ。

——『赤坂花形文楽』が楽しみです。

登場する4人は同世代。これから文楽を背負っていく人たちで、こうした会は良い発奮材料になります。

文楽は世界に誇れる伝統芸能。もっと多くの方に知っていただきたいものです。

まだまだ修行中ですが、こうした会を発信地として、これからもがんばっていきたいと思います。



人形遣いは人形を操るだけではありません。人形扱（ごしら）えといって、自分が遣う人形の手袋や頭巾を縫ったりするそうです。

吉田さんも人形の肩幅や手の大きさにこだわっているそう。

次の舞台の新しい工夫はこんな時にも生まれるのかかもしれませんね。



■プロフィール

1966年、東京・港区の愛育病院生まれ、大阪育ち。1980年、父の吉田玉幸に入門し、1981年大阪朝日座で初舞台を踏む。

2007年第24回咲くやこの花賞、2008年第27回国立劇場文樂賞文樂奨励賞、2011年大阪文化祭賞奨励賞など受賞。

立役（男役）遣いのホープとして活躍の場が増えている。

[▲このページのトップへ](#)

| [サイトマップ](#) | [みんなの声](#) | [Kissポート財団について](#) | [情報誌「Kissポート」について](#) | [品質・環境への取り組み](#) | [個人情報保護について\[PDF\]](#) |

Kissポート財団

(公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団)

港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーぶらざ

電話：03-5770-6837/Fax：03-5770-6884 お問い合わせ：fureai-info@kissport.or.jp



このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。当財団の許可なく複製、転載は出来ません。